

施策評価シート (平成23年度の振り返り、総括)

作成日 平成24年 07月 17日

施策 No.	19	施策名	高齢者の自立と社会参加の支援
主管課名	福祉課	電話番号	0285-83-8195
関係課名	健康増進課、介護保険課、生涯学習課、自然教育センター、国保年金課、(社会福祉協議会)		

施策の対象	65歳以上の市民								
対象指標名	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	26年度見込
高齢者人口(65歳以上)	人				15,749	16,059	16,160	16,498	18,500

施策の意図	高齢者に ・健康で生きがいを持って生活してもらう ・積極的に社会参加してもらう ・自立した生活をしてもらう								
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法(算定式など)	ねたきり高齢者 介護度4・5の者 社会参加している高齢者数は、趣味クラブ、老人クラブ、シルバー人材センター登録人数、地域づくり事業ミニデイ等参加者、65歳以上の民生委員等とする。								
成果指標名	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	26年度基本計画目標値
ねたきり高齢者数	人				680	775	785	752	862
高齢者人口に占める割合	%				4.3	4.83	4.85	4.56	4.70
社会参加している高齢者数	人				4,948	4,540	5,797	5,952	5,800
高齢者人口に占める割合	%				31.4	28.3	35.8	35.6	31.4

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	高齢者には生きがいをもって積極的に社会参加してもらう。 行政は自立した生活が送れるよう生きがいづくりや社会参加をしてもらうための、情報の提供や支援を行う。								
-------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

<p>23年度の 評価結果</p>	<p>1. 施策の成果水準とその背景（近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること）</p> <p>(1) 施策成果の時系列比較（過去3年間の比較）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・真岡市の23年10月の高齢化率は20.0%であり前年比0.3ポイント上昇している。 21年10月:19.3% 22年10月:19.7%</li> <li>・ねたきり高齢者は横ばいであるが、一人暮らし高齢者、高齢者世帯ともに増加している。</li> <li>・社会参加をしている高齢者数は、増加傾向にある。</li> <li>・老人クラブ数は23年度末において92クラブ、会員3,141名であり会員数は減少傾向にある。 22年度末:92クラブ3,261名 21年度末:94クラブ3,426名</li> <li>・シルバー人材センター会員 23年度末:517名 22年度末:497名 21年度末:529名</li> </ul> <p>(2) 近隣他市との比較</p> <p>高齢化率(10月1日現在人口統計) 23年:真岡市20.0%・県22.3%(14市中下から3位) 22年:真岡市19.7%・県21.8%(5位) 21年:真岡市19.3%・県21.6%(4位) 国23年:23.3% 22年:23.0% 21年:22.7%</p> <p>老人クラブ加入率 23年度:真岡市14.0%(14市中上から5位) 22年度:真岡市15.1%(4位) シルバー人材センター加入率 23年度:真岡市2.2%(14市中上から5位) 22年度:真岡市2.3%(4位)</p> <p>(3) 住民期待水準との比較</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民意向調査では、今後力を入れてほしい施策として「高齢者福祉の推進」(43.5%)が1位となっている。</li> </ul>
	<p>2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老人クラブ、趣味クラブ（囲碁、四つ竹踊り、民謡、民舞、ハワイアン、社交ダンスの11団体）、シルバー人材センターへの加入促進を図った。</li> <li>・老人憩の家、老人研修センターの利用促進を図った。（憩の家：115回延べ2,618人利用、老研センター：105回2,413人利用）</li> <li>・健康増進施設真岡井頭温泉の利用助成を促進した。（温泉利用者延べ44,574人）</li> <li>・真岡市独自のふれあい地域づくり事業の中で、地域福祉づくり推進事業（井頭温泉招待事業、ミニデイホーム事業、敬老会事業、介護予防体操事業）を通して、社会参加を支援している。</li> <li>・介護予防のためノンケア体操などの介護予防体操の普及や指導者の養成を行った。（18地区で実施）</li> <li>・介護予防の高齢者向け各種教室を実施した（延べ1,875人） もの忘れ予防教室実施後に、高齢者のもの忘れ予防を兼ねた「能力アップの場」として、自主グループを立ち上げた。（2グループ）</li> <li>・23年度は、新たに高齢者見守りネットワーク事業を取り入れ、地域で高齢者等の見守り活動を組織し活動した。（14地区）</li> <li>・老人研修センターでは、児童生徒と高齢者との交流活動を行っている。</li> </ul>

3. 施策の課題認識と改革改善の方向

- ・ 今後団塊の世代が65歳を超える平成26年度までには、前期高齢者の急激な増加が予測されており、高齢者が自主的に社会活動に参加できる機会を支援していくことが必要となる。
- ・ 老人クラブや趣味クラブについては、市広報誌で活動内容紹介などの啓発を行い、加入と活動への参加を推進する。
- ・ 地域福祉づくり推進事業の中で、介護予防体操事業の実施を呼びかけ、ねたきりにならないための健康づくりを推進する。
- ・ 高齢者見守りネットワーク事業による、地域での活動を推進する。
- ・ 生きがい活動支援通所事業（デイサービス事業）や介護予防事業（運動機能向上、口腔機能向上）を活用し、閉じこもり高齢者の社会参加を推進する。

23年度の  
評価結果

補足事項